

千鳥ヶ淵の環境再生が始まります。 ～千鳥ヶ淵環境再生プラン～

千鳥ヶ淵について

千鳥ヶ淵は、皇居のお濠の一つであり、周囲を皇居、北の丸公園等に囲まれており、また、石垣、堤、周囲の門などは、江戸城の歴史を今に伝えており、日本を象徴する場所の一部となっています。

また、千鳥ヶ淵周辺は、変化に富んだ優れた景觀に特徴があるサクラの名所として親しまれています。

この地域一帯は、都心に貴重な自然が残されており、ヒカリゴケや地域に昔からいた可能性のあるヘイケボタルなどの貴重な生物も棲んでいます。

課題と現在の対応

千鳥ヶ淵とその周辺は、様々な魅力にあふれた場所ですが、一方で水質の悪化によるアオコの大量発生、サクラの優れた景觀の維持、サクラ以外の時期の利用推進など課題もあります。

このうち、水質については、東京都による下水道からの雨天時の越流防止対策、環境省による新濠水浄化施設の運用などの対策が進められており、今後数年で徐々に改善されていく見込みです。

千鳥ヶ淵環境再生プラン

環境省皇居外苑管理事務所では、水質の改善を機会に、生物、景觀、利用などいろいろな面から千鳥ヶ淵の将来像と実現の道筋について専門家や一般市民の参加による検討を行い、構想「千鳥ヶ淵環境再生プラン」をつくりました。

このプランは、北の丸公園など千鳥ヶ淵の周囲も含み、関係する様々な人々の参加によって実現するものです。

環境再生プランの内容は裏面に...

千鳥ヶ淵を歩いてみよう。(今の千鳥ヶ淵)

①通り抜け型のサクラ並木が濠に沿って屈曲し、区間によって景觀が変化する。

②展望台からは濠の水と対岸のサクラがパノラマ状に幅広く広がる。

③堤塘上や背景の樹木によってビル群等から遮られる。

④土手は野趣に富んだ雰囲気を持ち、四季の変化が感じられる。

⑤濠の水面を俯瞰し、奥行きのある濠の景觀が遠望できる。

⑥屈曲した濠の形状によって、近景・中景・遠景が重なり合う奥行き感のある景觀が得られる。

⑦水面からは溪谷的な雰囲気を感じられる。

⑧堤塘斜面のサクラが水面近くまで枝が下垂し、サクラの花びらが覆う水面を見下ろせる。

⑨濠の水面や対岸の緑道を俯瞰で望む。

凡例
 濠、水面 サクラ
 樹林 市街地
 草地 周回ルート
 ● 現存する近世の歴史的資源
 ● 現存する近代の歴史的資源
 ● 現存する現代の歴史的資源
 ● 案内板など

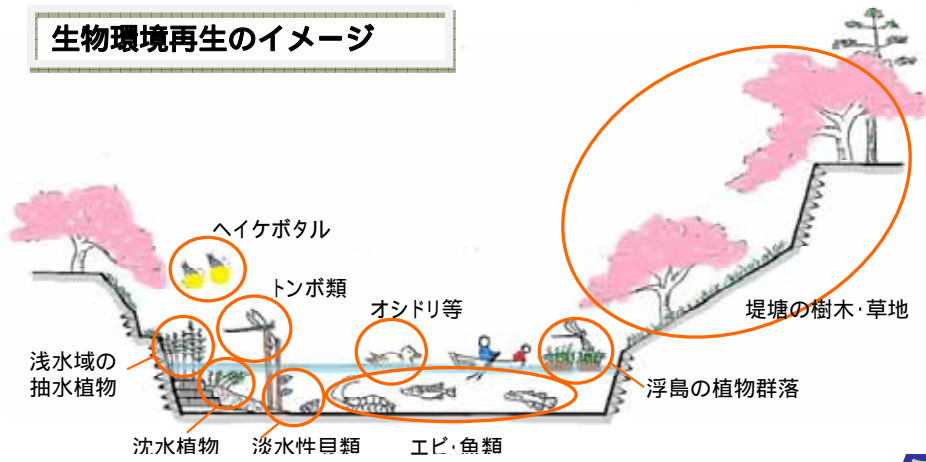
0 50 100 200m

【問い合わせ先】
 環境省皇居外苑管理事務所 電話 03(3213)0095
 ホームページ <http://www.env.go.jp/garden/kokyogaien/index.html>
 北の丸公園
 環境省皇居外苑管理事務所北の丸分室 電話 03(3211)7878

千鳥ヶ淵環境再生プランの目指す姿

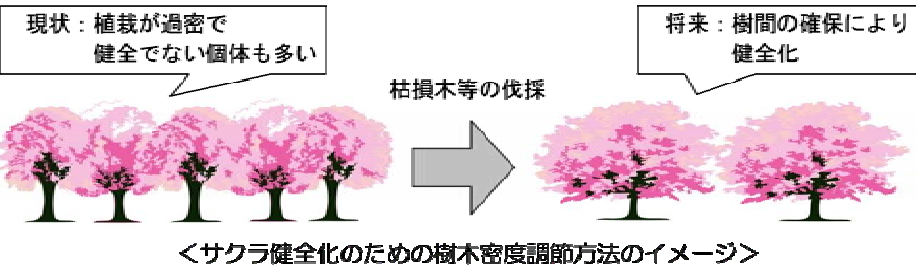
我が国の象徴としての皇居の森と一体化した森と水といきものの空間を目指します。

生物環境再生のイメージ



【景観】

サクラなど時代時代の景観づくりを進めるとともに、象徴性、歴史性といったずっと変わらない魅力との共存を図ります。



象徴性、歴史性が継承され、見て、識ることのできる場所づくりを目指します。

千鳥ヶ淵の周囲を巡る周回コースをモデルコースとして設定し、情報発信や環境整備を進めます。

【景観】サクラの健全な維持管理



近景・中景・遠景の緑が折り重なる眺望が楽しめる



サクラは適度な間隔が保たれている



トンボ等の水生生物が身近に観察できる

【生物】水辺の自然とのふれあい検討区域 (抽水植物)



眺望、散策の場として利用されている

【景観・利用】野趣に富んだ景観の維持と活用



皇居の森との接点としての生物の生息・生育の場、移動の場となっている

【生物】自然環境保全を考慮した管理区域

【生物】自然環境保全を考慮した管理区域



多様な生物の生息・生育の場として安定している

濠にはヨシ類、ハス、沈水植物が豊かに繁茂している

【生物】自然再生検討区域 (ホタル、浮島)



ヘイケボタルが安定的な生息を維持



過密な植栽地では剪定や除間伐により樹林間隔を確保

【景観】明るい植栽地の創出